

事故で中断の北米大陸1周
障害者用オートバイで完走



十四年前に事故で中断した旅の再開だった。残りの約一万四千キロを八月三十日から五十九日間かけて走破、北米大陸一周の夢を成し遂げた。

事故は一九八六年八月二十九日、カナタ大西洋岸の町シドニー付近をオートバイ走行中に起きた。対向車線をはみ出してきた乗用車を避けようとして転倒、道路わきのくいに激突。背骨の一部を損傷した。以来、車いすですら。

ひと

飲食店を経営し、バリアフリー運動に力を注ぐ日々。未完の旅への思いは心の隅でくすぶっていた。

「障害者は一人では何もできない」と決めつけている仲間や健常者も多い。だから一人旅にこだわった」

昨夏から、旅を再開する準備を進めてきた。メーカーから提供された二輪オートバイを、両腕だけで運転できる三輪に改造し、めどが立った。

再出発する日を「事故翌日」に当たる八月三十日と決め、収容された病院前からスタート。米国東海岸をフロリダまで南下し、西へ。十月末、十四年前の出発地ロサンゼルスにたどり着いた。

途中、オートバイの故障は六回。高速道路でエンジンが止まった時は、親切な米国人老夫婦がUターンして助けてくれた。

夜はキャンプ場で体を休めた。ふるに入りたい時は安いモーテルを探した。座り続けおしりにできた傷の痛みは軟こうを塗って我慢した。

「旅を終えたら、手助けしてくれた大勢の人たちの顔が、ぶわっと頭の中に浮かんできて。しばらくぼーっとしていました」

事故直後、「何もできない」が口癖だった。一年後、お世話になった看護婦さんたちにお礼をするため、カナタを再訪した。帰りの機中で仲良くなったカナタ人老夫婦に「君はただ歩けないだけだろう」と言われて立ち直れた。長い旅を終えて、この言葉

を伝える番になった。
文・写真 上林 格